

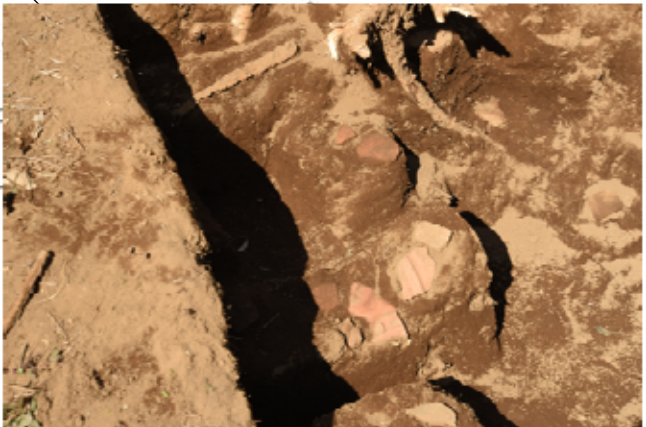
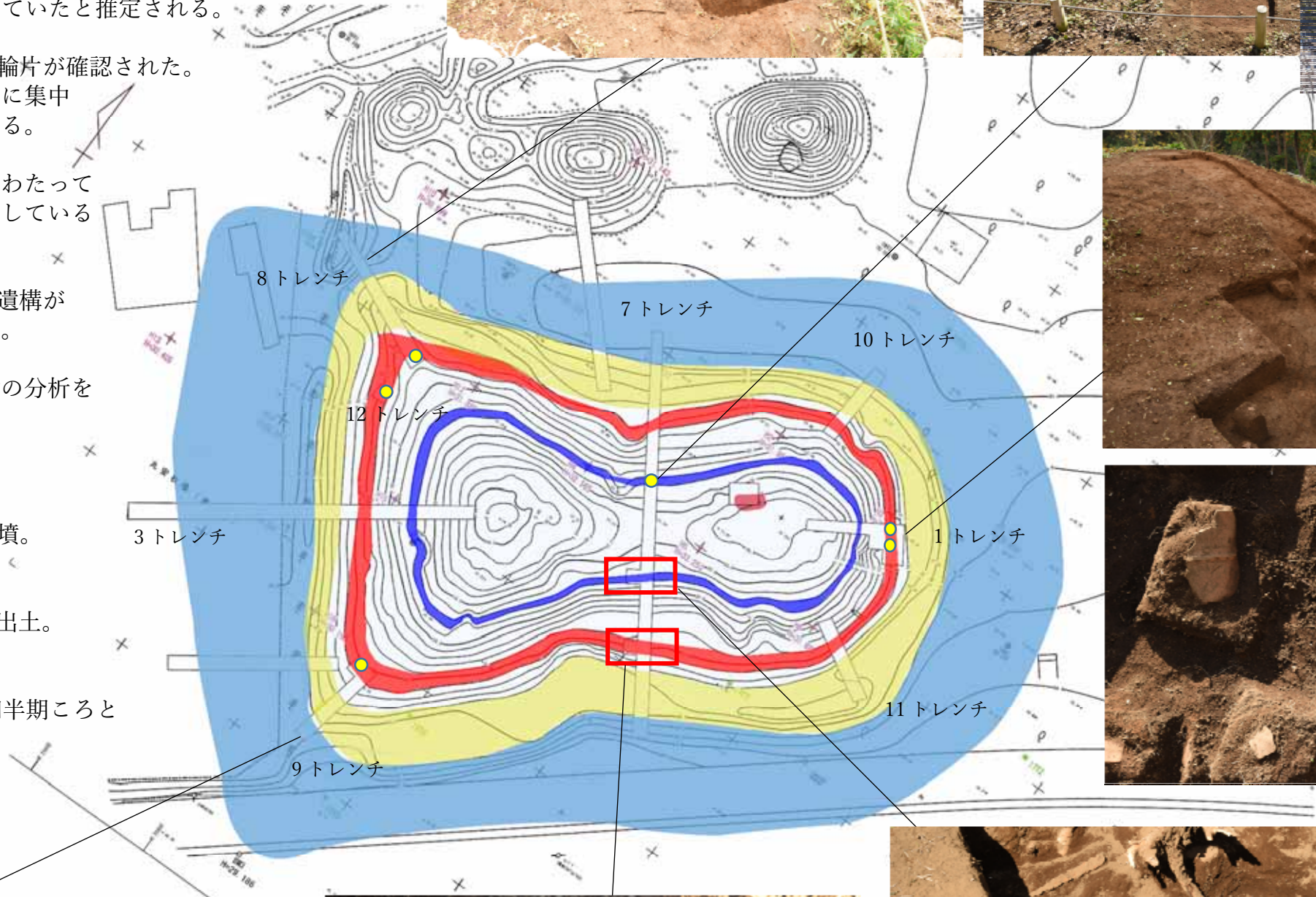
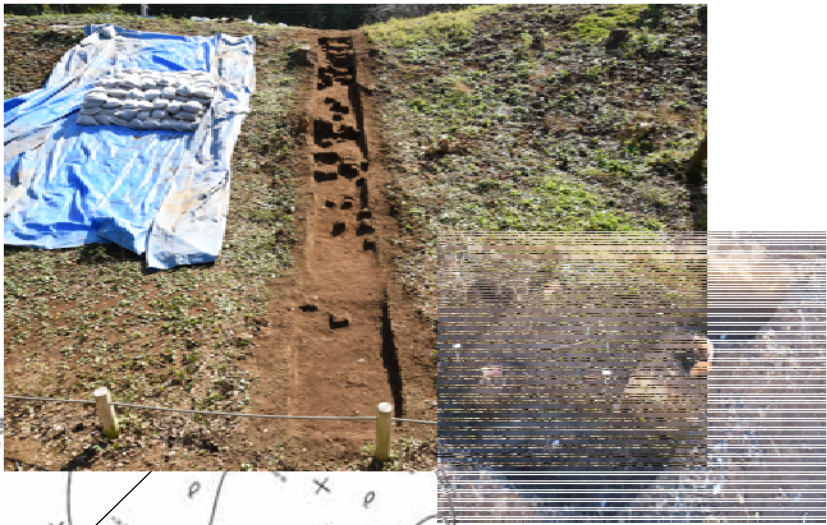
令和元年度 道作 1 号墳（第 3 次）発掘調査成果

今年度の成果

- ・ 1・8・9 トレンチ墳裾部から原位置と推定される円筒埴輪列が検出された。
また、7 トレンチからは墳頂部からも埴輪の基部が出土しており、埴輪列は少なくとも墳頂部に 1 列、墳裾部に 1 列巡っていたと推定される。
- ・ 7 トレンチ南側、墳頂部および平坦部において形象埴輪片が確認された。
埴輪の種類は現在調査中であるが、形象埴輪は括れ部に集中しており、意図的に配置されたものであると考えられる。
- ・ また、主に墳丘南側につくられた平坦面は、広範囲にわたって硬化面が確認されたうえ、周溝の立ち上がりとも連動していることから、古墳築造に伴うものであると推定される。
- ・ 8 トレンチでは、周溝を切る形で後世の盛土及び溝状遺構が検出し、墳丘の改変がなされていたことが確認された。
- ・ 調査は今年度で終了予定であり、今後は出土した埴輪の分析を進める。また、周辺の古墳との比較を行いながら道作 1 号墳の性格について検討していく。

これまでの成果

- ・ 全長約 46m（周溝含め 66m）、高さ約 4m の前方後円墳。
（印旛沼西岸域で最大）
- ・ 後円墳頂部に長さ約 2.2m、最大幅 0.85m の箱式石棺出土。
石棺は絹雲母片岩（筑波石）製。
- ・ 出土した埴輪の特徴から、古墳の築造は 6 世紀第 3 四半期ころと推定される。



凡例
■：周溝 ■：平坦面 ●：埴輪（基部）
■：墳裾埴輪列 ■：墳丘埴輪列 □：形象埴輪出土位置